

会員だより

チロル地方と

ドロミテ街道を

巡る旅

ローマ時代から脈々と  
続く歴史の  
世界遺産・古都編

まず閑空から飛び立って約12時間ドイツのミュンヘンについて、さらにバスで3時間間掛かって、夜半インスブルックのホテルに着いた。EUになって国境のパスポート検査はない。ツアーのお仲間の平均年齢は70才前後の19人で親しみを感じてほっとした。とにかく明日からの観光に期待して、体力温存とベッドに入る。

翌朝から早速インスブルックの市内見学が始まった。ハプスブルグ家の夏の宮殿とした所で、黄金の小屋根が街を見下ろしている。今もさらさらとしているが当時は2千6百枚余りの金の瓦が使われたというから銀と銅の産出で膨大な富を得たのである。街の中心にマリア・テレジア通りがあり、周辺に世界のブランド店と由緒ある古いホテルが立ち並んでいる。しかしヨーロッパの大抵の古都は何

年経つてもあまり変わりなくしつとりしている。私が約20年前ここを訪れた時とあまり変わっていない。ただ観光客のお国柄が多国籍になっているし、食事処も多種多様に増えている。1700年頃モーツァルトもこの地に泊り、演奏会も催されたとい、当時から文化に秀でた街であっただろう。最近では冬季オリンピックでジャンプ競技の舞台になった。設計は東京オリンピックの競技場のコンペで取り消された建築家ザハ・ハディド氏(故)である。



マクシミリアン1世の墓のある宮廷教会

今回のツアーはチロル地方の自然と文化のユネスコ世界遺産を巡るという事で、文化遺産としてザルツブルグの歴史旧都市地区も楽しみの一つであった。ここはモーツァルトの生誕の地であり(後に指揮者カラヤン

も生誕)、毎年の音楽祭、映画ファンにとってサウンドオブミュージックの舞台になった街であり、美しい山や湖に足を伸ばせるアウトドア派にとつて最高の街である。本来は11世紀時代、皇帝を越える権力と富を持っていた大司教の堅固な宮殿と壮麗な教会と旧市街地にある街道筋の街並が世界遺産に選ばれた理由であろう。ザルツブルグの名称の由来は「塩の城」からきており、周囲の岩塩坑から産出される塩の取引で繁栄を続け、今も土産店に趣向を凝らした容器が並んでいる。日本では歴史ある町家や田舎家の保存に苦労しているが、ヨーロッパで見かける多くの建物が石の建造物であるためか、店舗やアパートがその古さを競って自慢しているのが羨ましいかぎりだ。また日本の良さも再発見しよう。

四季彩

記・写真:上村サト子

ゴーヤ

一般的にゴーヤ、ニガウリ(苦瓜)、標準和名はツルレイシ(蔓荔枝)でイボに覆われた果実の外観がレイシ(ライチ)に似ていることに由来する。地域によって栽培種類も

名称も異なる。私たちにとつて親しみを与えたのは、平成13年に放送されたNHKの「ちゅらさん」で擬人化した「ゴーヤマン」である。その後沖縄料理のゴーヤチャーハンやグリーンカーテの薦めですっかり全国にゴーヤが定着した。

私も料理に残る苦さが暑い夏を乗り切るのにだんだん慣れてきた。黄色の可愛い花が細い細い実の姿に変え、どんどん大きくなり、本来は完熟して真っ黄色の実となり、弾けて本来の目的の鳥に食べられ遠くへ運んでもらいたい処を、人間は

まだ未熟の実を収穫して食用にさせてもらうのですから、苦みは人間の勝手です。昔、義父は外側を食べることなく、弾けた種の甘さを楽しんでいました。



ゴーヤの実と花

続・スリランカにメガネを送る活動！！

今年(2017)4月の「VG観輪総会」にスリランカ・日本友の会関西支部、藤井会長がご参加下さり活動内容と感謝の言葉を頂き感激致しました。

その後の5月末には第4回目をお送りしました。今度は11月末の予定ですが既に沢山集まり、益々この愛の行動が広まっている事を実感しております。

スリランカの人々は長年イギリスの植民地で良い国になったと感謝し、1番好きなのがイギリス。2番目が日本とインドでその勤勉さとボランティア精神を尊敬しているそう嬉しい限りです。尚一層、親しみを感じて今後共ご協力の程よろしくお願い致します。

記

1. 眼鏡の種類は、中古の近視用、遠視用(大人用、子供用)です。サングラスは扱っておりません。
2. 鼻当てが壊れていてもOKですが、フレームの壊れ、レンズが曇って再生不能なものは送っていません。
3. 会員以外の方の申し出がある場合、VG観輪の会員にお手渡しをお願いします。
4. 会員の方は会長:大岡成一、  
または担当:中川加奈子に手渡し下さい。
5. 第5回の締め切りは、2017年11月25日です。
6. 今後も継続致します。  
来年度の予定は、2018年5月末と11月末予定。

記:中川加奈子